

患者の内科的疾患に 関するアンケート調査

公益社団法人 大阪府柔道整復師会
研究事業部

背 景

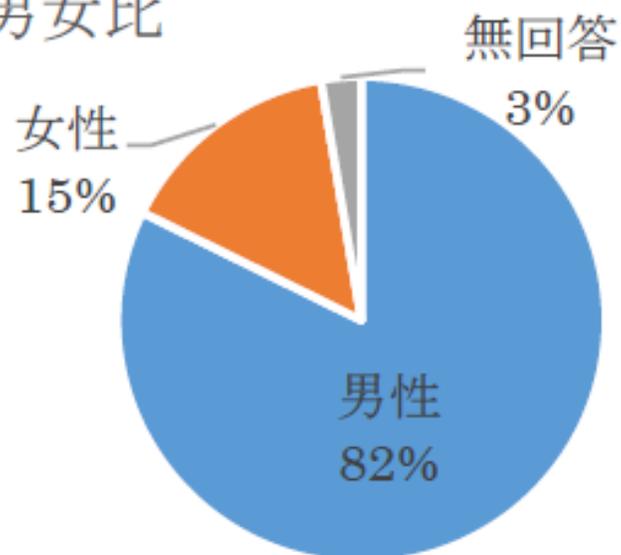
柔道整復師が日常の臨床にあたる中で、柔道整復施術の範囲を超える内科的疾患が原発の疼痛を訴える患者に出会うことも少なくない。そのような場合に適切に鑑別、判断して医師と連携して早期発見、早期治療を行うことは患者の最大の利益となる。

そこで公益社団法人 大阪府柔道整復師会 会員の柔道整復師を対象に、臨床でこれらのような内科的疾患の疑い、精査の結果で内科的疾患が判明した事例についてアンケート調査を行った。

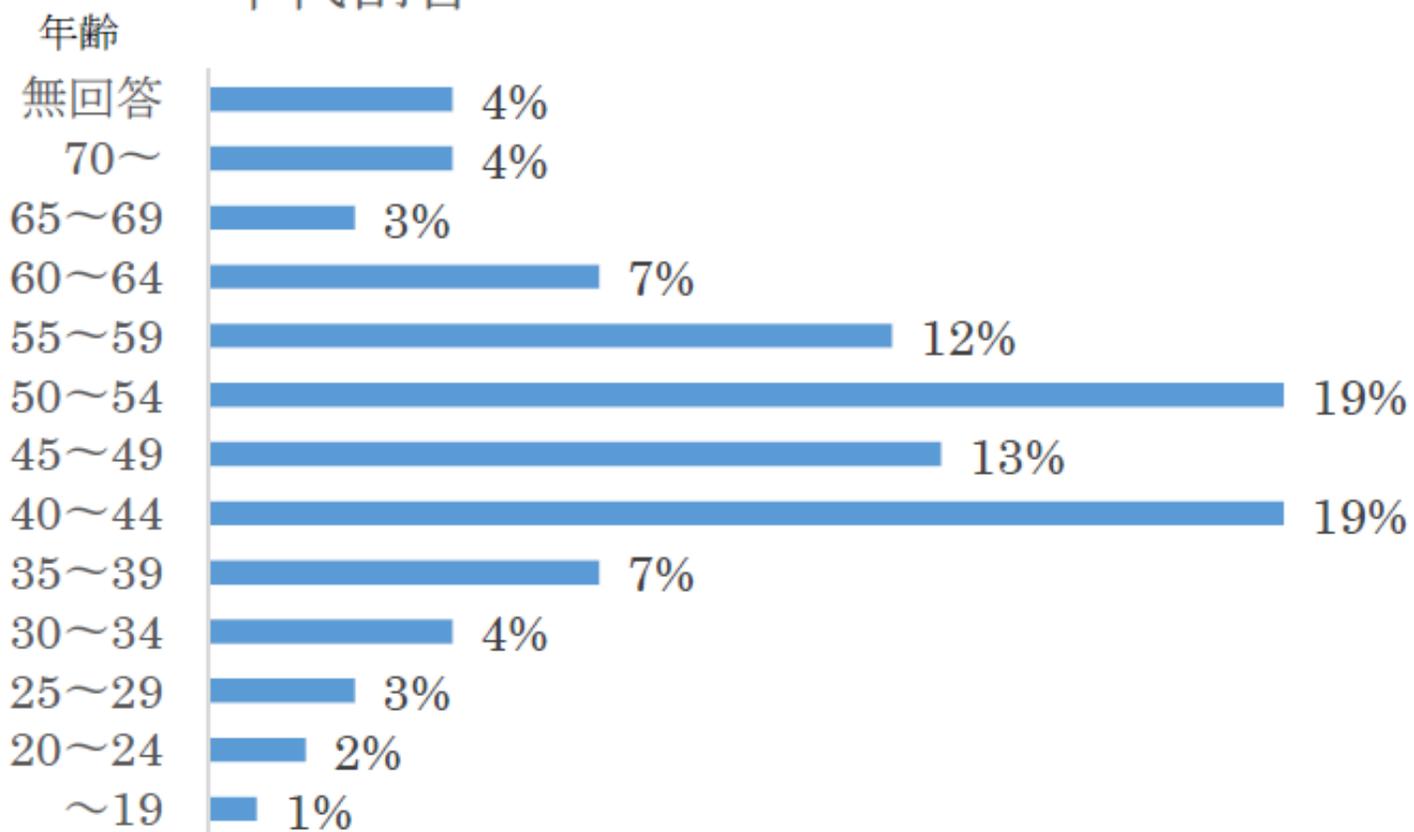
調査期間：平成26年12月3日 ~ 12月24日

回答者数：113名

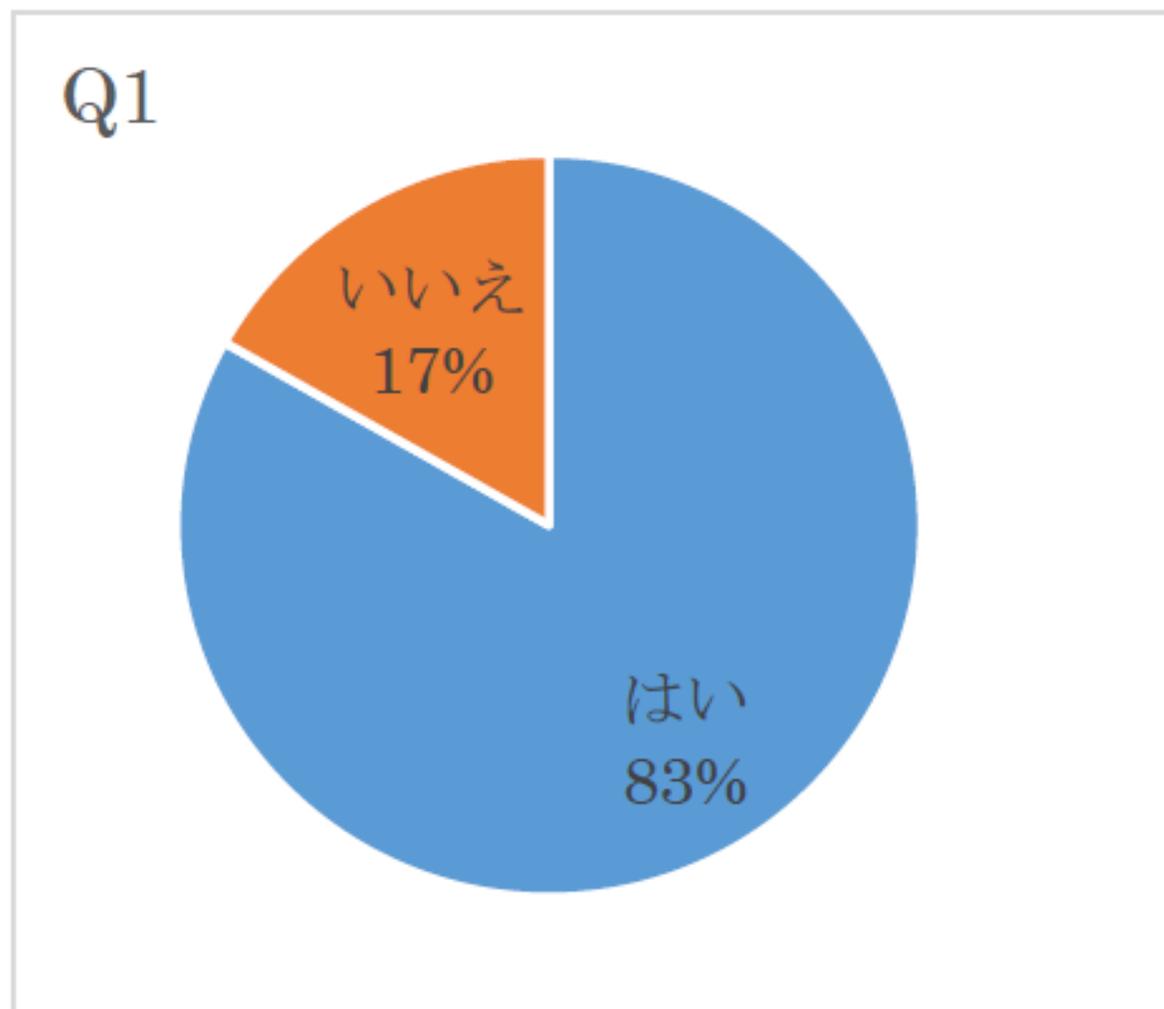
男女比



年代割合



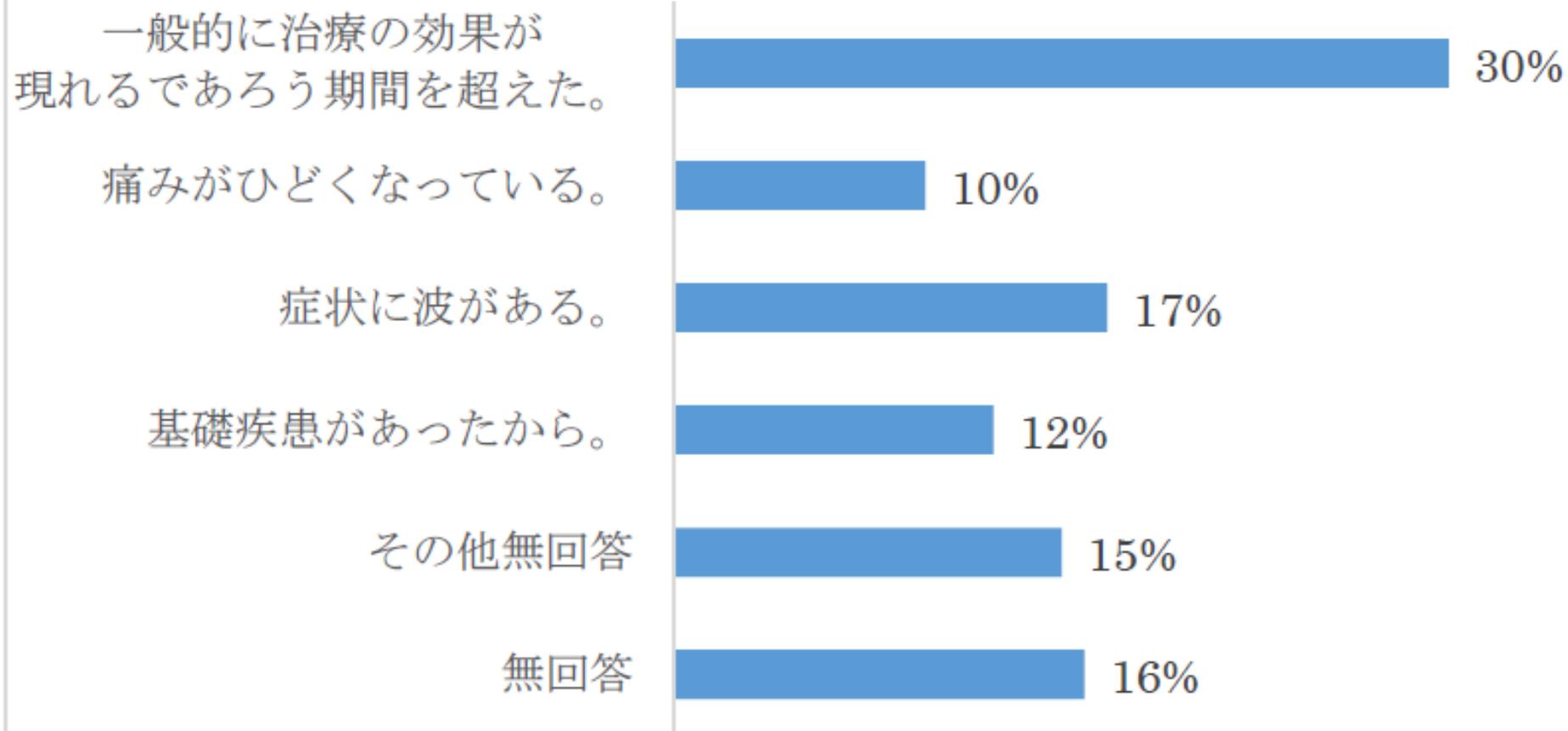
Q1. 「柔道整復師の業務範囲内だと判断し施術をしていたが、実は業務範囲外の原因による痛みであった」といった患者さんの施術にあたったことはありますか？



Q2. Q1. で「はい」とお答えいただいた方に質問です。

患者さんのどのような状況から業務範囲外の原因を疑いましたか？

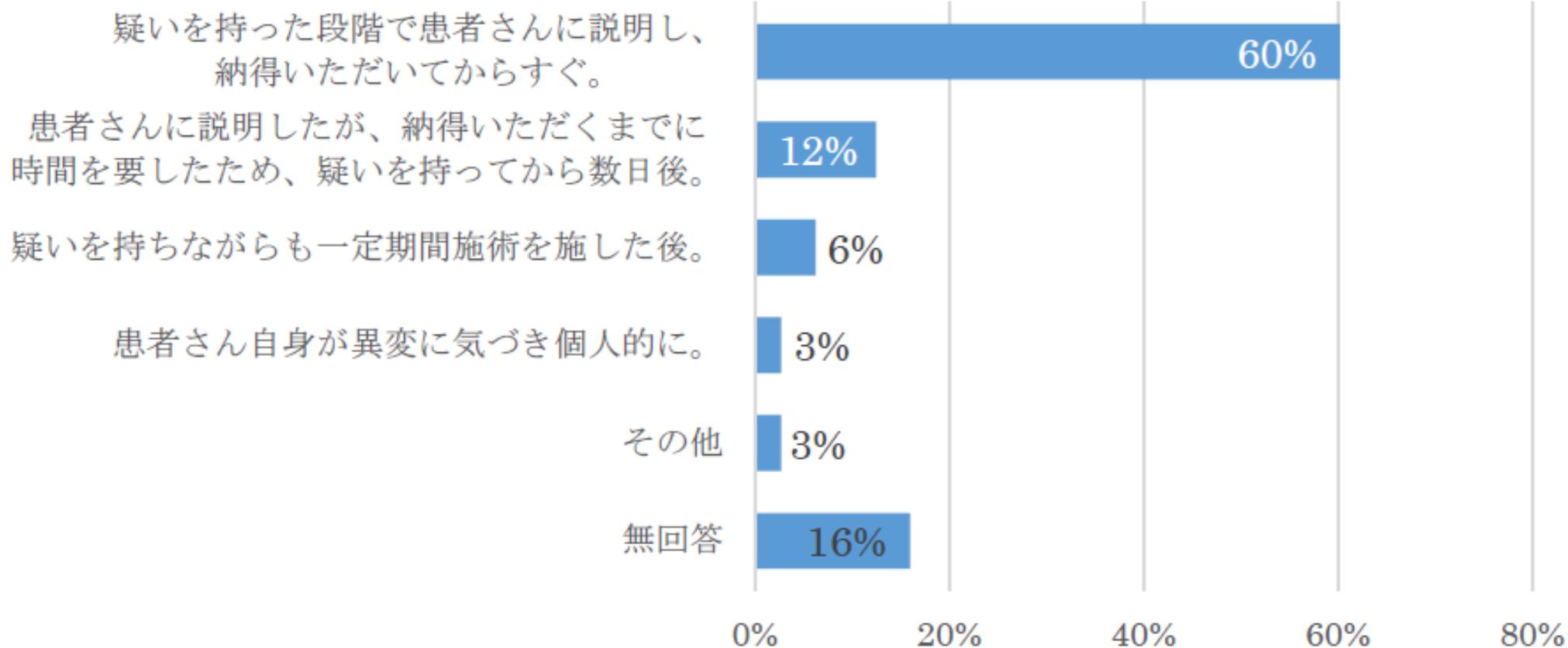
Q2



Q3. Q1. で「はい」とお答えいただいた方に質問です。

患者さんが、医科を受診したのはどのようなタイミングですか？

Q3

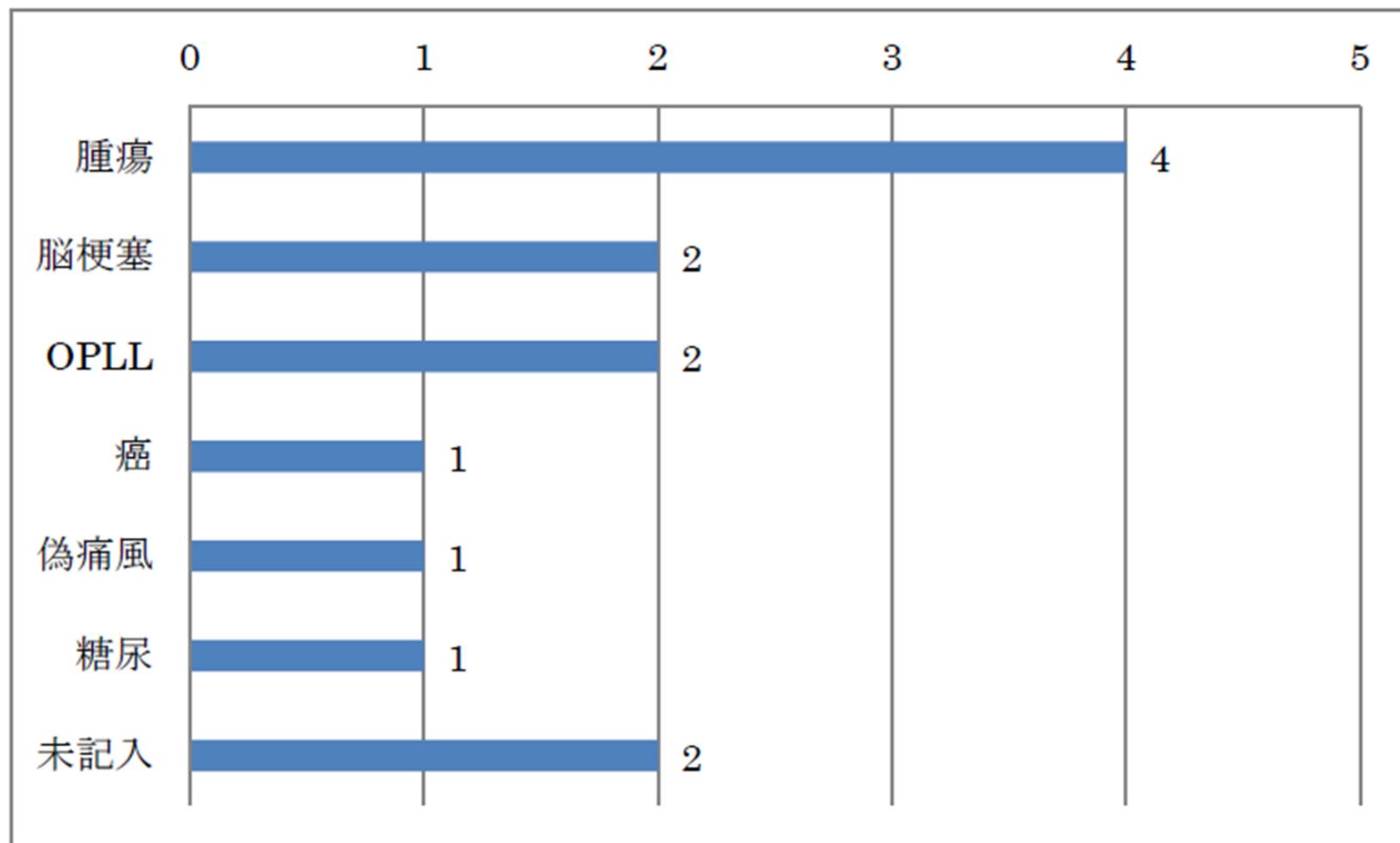


Q4. まとめ

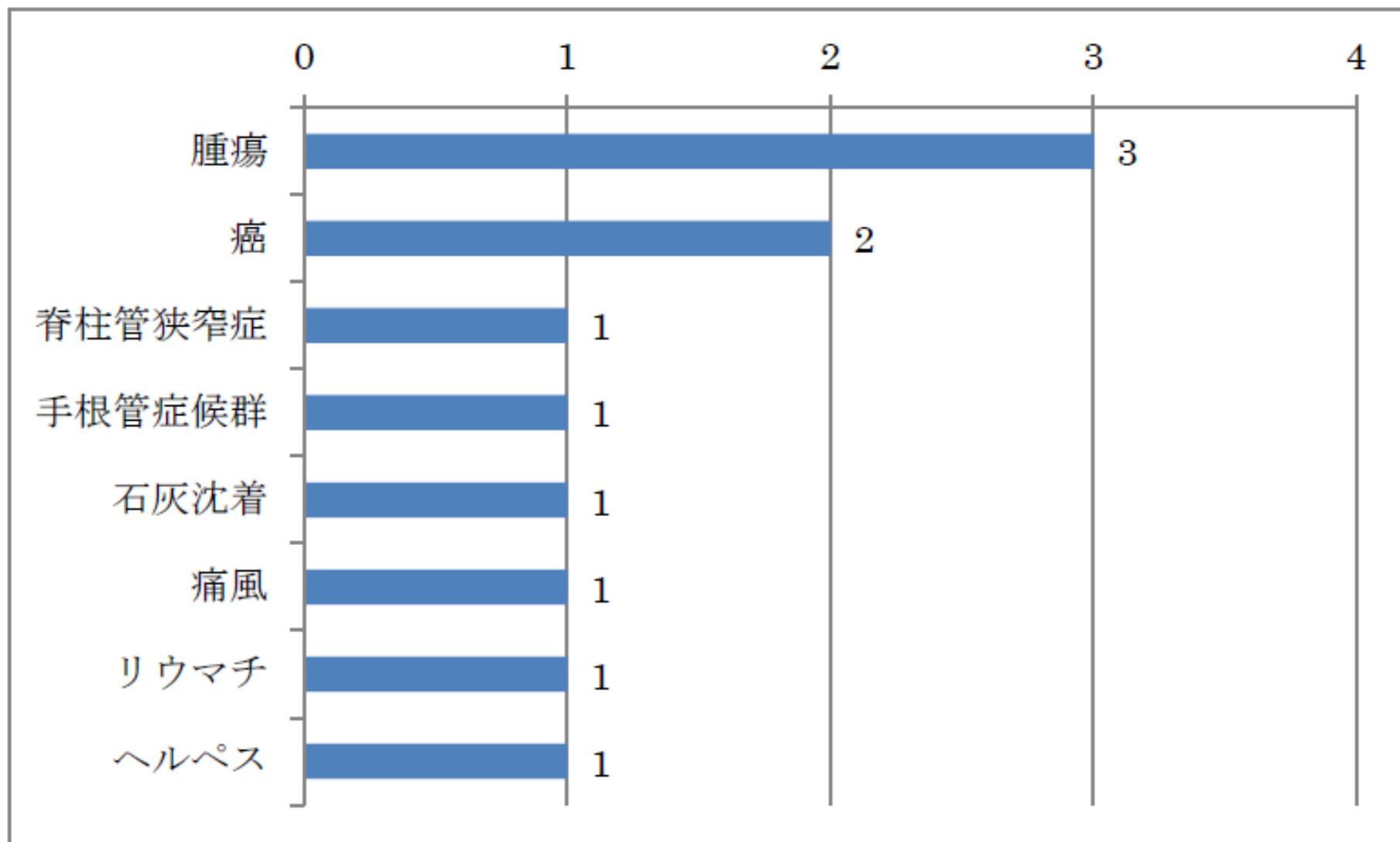
病院での診断結果について教えてください。

《 部位毎にまとめ、診断名で分類 》

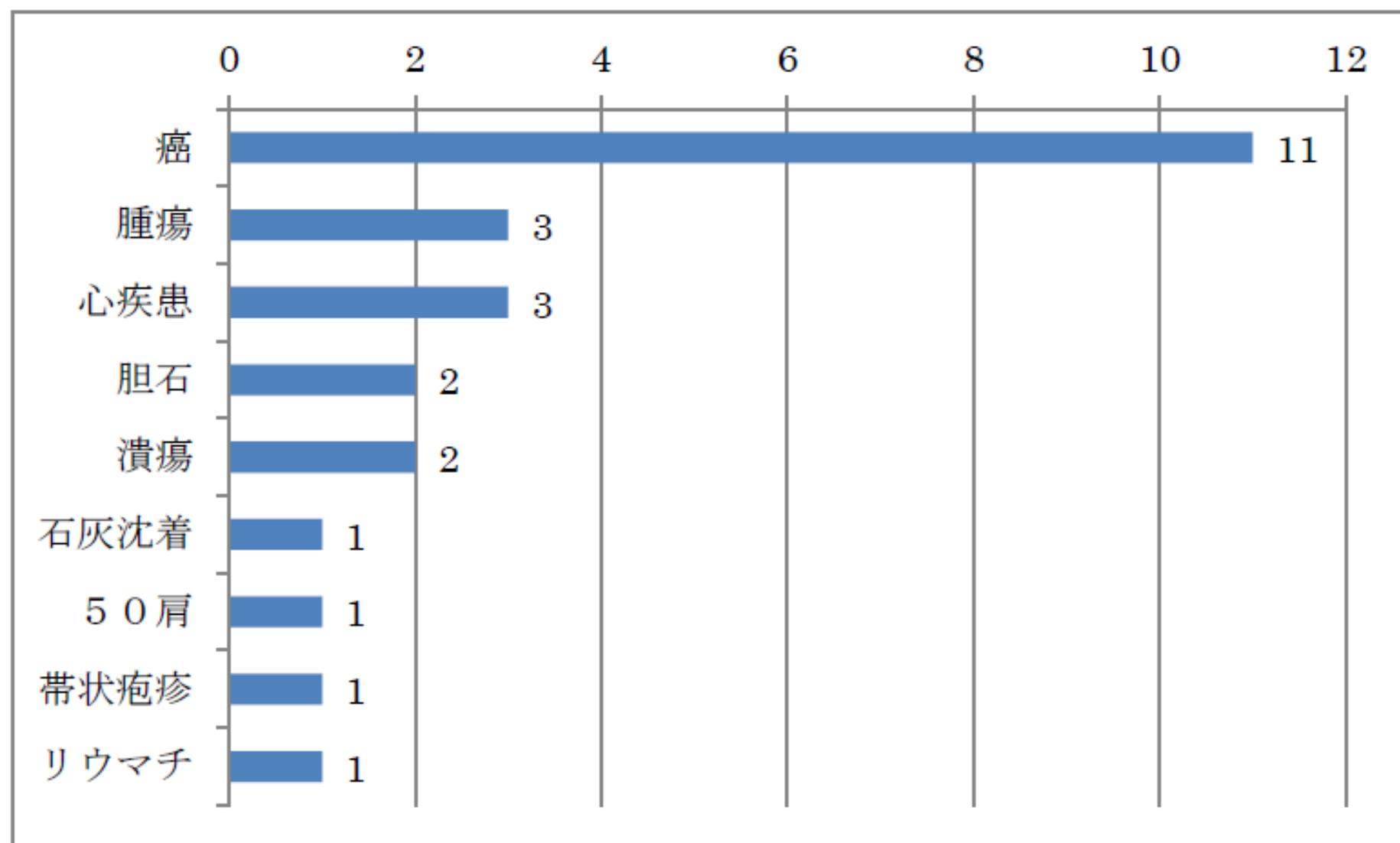
頸部に症状のあった13例



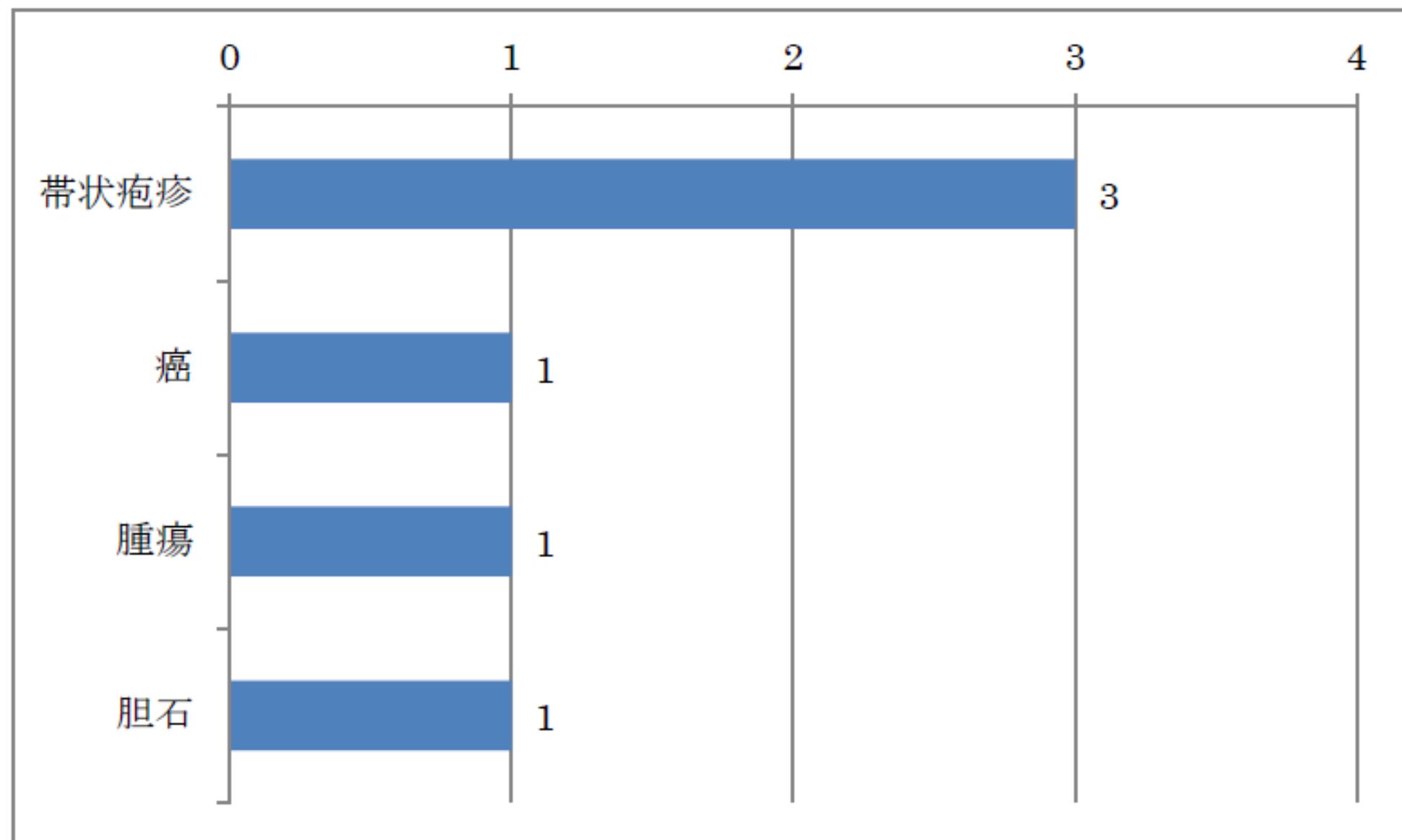
上肢に症状のあった11例



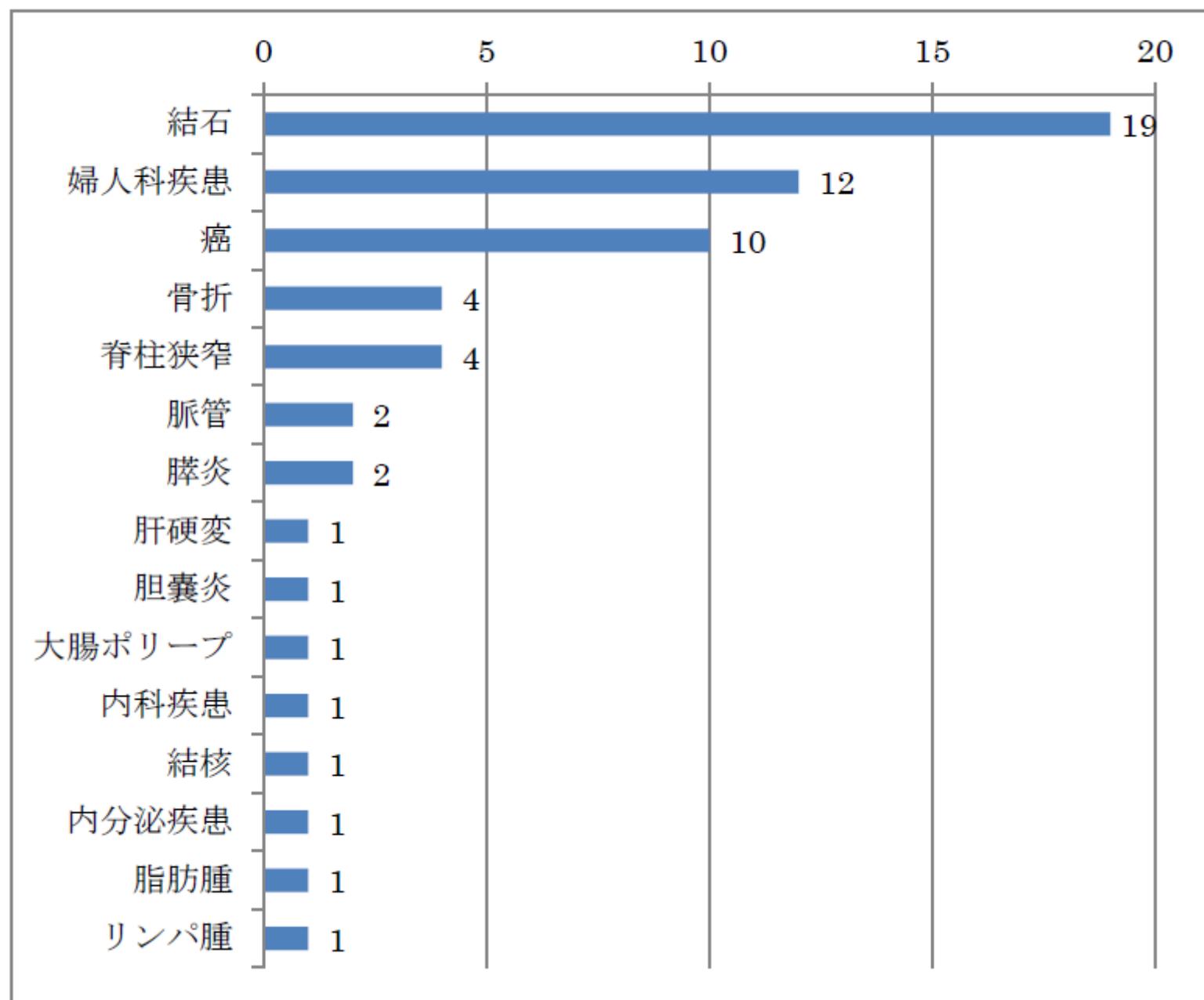
肩・背部に症状のあった25例



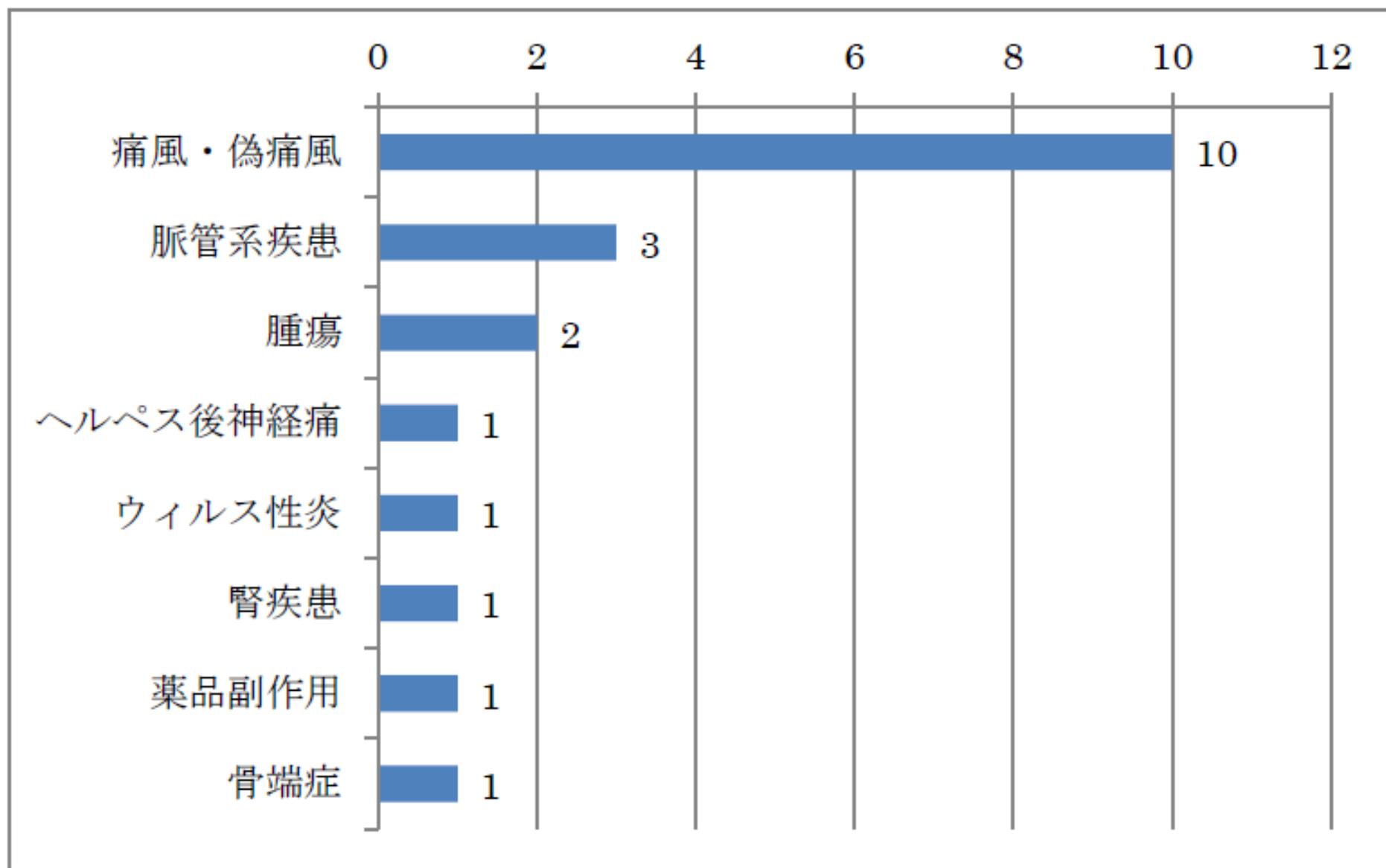
胸部に症状のあった6例



腰部に症状のあった61例



下肢に症状のあった20例



まとめ

ごく短期間の調査でもこれらの報告例があった。継続して調査を行えば、さらに多くの事例があると考えられる。

柔道整復師は日々の臨床で整形外科領域の疾患以外にも、これらの疾患が隠れていることも念頭に、問診・鑑別を行い、施術の範囲を超える疾患が疑われる場合には、速やかに医師の診察を受けるよう、患者に指導することが患者の最大の利益となる。また、患者・医師との信頼関係の構築にも繋がる。

※公益社団法人 大阪府柔道整復師会では、患者の利益に資するため医師と連携を図る事を目的に、公益事業の一環として医接連携室を設置。必要に応じて医師に診察の依頼やメールでの相談、患者の情報を共有して施術にあたっています。